

2市町の復興を促進 交流

登米・南三陸Festivalオープン

登米市と南三陸町の物産販売、交流の拠点施設として迫町西佐沼の大通り商店街に建設が進められていた「登米・南三陸Festival (フェスティバル)」が完成し、7月8日にオープニングセレモニーが行われました。



▲式典では、関係者にテープカットが行われました。

国の震災復興の補助事業を活用
完成した建物は鉄骨平屋建て。床面積は約720平方メートル。事業費は約1億7800万円で、東日本大震災で被災した商店街などの、にぎわい創出に向けた施設整備などに対して行われる国の補助事業を活用しました。

ペントができる交流スペースや災害支援助物資の備蓄倉庫なども備えています。
8日に現地で行われたオープニングセレモニーには、布施孝尚市長や南三陸町の佐藤仁町長などの来賓と、開店を待つ多くの人々が集まりました。式典では、施設を開設・運営するジョイショッピングセンターの阿部泰彦社長が挨拶し、「昨年の震災で被災したこの商店街に、もう一度活気を取り戻したいと思っていました。登米市と南三陸町にはおいしい食材がいっぱいあります。地震と津波で被害



【上】登米市と南三陸町の物産が並ぶ広い販売ブース。壁には大漁旗が貼られています。
【下】大型テレビや展示ブースなどを備えたイベント・交流スペース



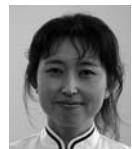
迫町西佐沼の大通り商店街にオープンした登米・南三陸Festival。初日から大勢の人でにぎわいました

を受けた南三陸町が1日でも早く復興できるようにみんな協力していきたい」と決意を述べました。
布施市長は「この施設が、地域の復興と震災からの復興を願う大勢の皆様への思いを込めた施設になっていただけ

ばと思います」と祝辞を述べました。南三陸町の佐藤町長は「ここは、登米市と南三陸町の絆のシンボル。引き続き南三陸町を見守っていただきたい」と話しました。
施設の営業は午前10時から午後7時まで。年中無休。

働く人たちの思い

VOICE



佐々木 初枝さん
(中田町妻書)

総括マネージャーをしています。私たちが目指すのは登米市と南三陸町の交流と復興です。取り扱う商品は登米産と南三陸産が中心。登米と南三陸には本当に良いものがたくさんあります。始まったばかりで品ぞろえなど課題もありますが、お客様の声を受け止めながら、皆さんに喜んでいただける場所にしていきたいですね。



堀内 裕美さん
(中田町新橋)

レストランの厨房を担当しています。我家は南三陸町志津川で、大震災で被災しました。現在は登米市内にアパートを借りて住んでいます。登米に来て驚いたのは、いろいろな野菜があること。南三陸の海産物と組み合わせると面白いかもしれません。皆さんに南三陸のおいしいものをおいしく食べてもらい、復興を手伝いたいですね。

雇用創出と新たな商品開発に期待

登米南三陸Festivalが建設された場所は、かつてベルプラザという商業施設があり、大通り商店街の玄関口として大変にぎわいました。その大通り商店街も昨年の震災で大きな被害を受けましたが、復興に向けて皆さん、がんばっています。今回の開店が商店街のにぎわいを復活させる起爆剤になってほしいですね。

同店には、雇用の創出はもちろん、登米と南三陸の両方の食材を組み合わせた新たな商品開発なども期待しています。



市産業経済部商工観光課 阿部 孝弘 課長